第266回 都市懇サロン レポート	テーマ：「都市農業の現状と課題～国分寺中村農園の取り組み」		
講師	国分寺中村農園 こくベジプロジェクト検討会議会長　中村 克之さん	開催	令和4年12月15日(木) 18：00～20：00
講師 プロフィール	商社系 IT 企業に 18 年勤務し、SE、事業企画、営業、経営企画等を経験。地域通貨「ぶんじ」での飲食店の人々との出会いをきっかけに、地場野菜を市内の飲食店に提供する「こくベジ」プロジェクトに参加。農協の青壮年部の取り組みを通じて、都市農業の魅力や課題に気付き、東京農業の発信の場として 2018 年 6 月東京・赤坂見附に「東京農村」ビルを設立。		
お話の概要	**□国分寺中村農園（国分寺市日吉町４丁目・面積 80a(ハウス 11 棟)）** ・東京うど、イチゴをメインに約 40 品目を栽培。 ・IPM（総合的病害虫管理）、イチゴの高設栽培、ミニトマトのココバック養液栽培システム、障碍者施設・孤児院との協同による 6 次産業化（加工食品）・農福連携、都内農家と都心の飲食店を繋げる取組み（にっぽん応援マルシェ・大丸有サステイナブルポータル ECOZZERIA など）。 **□こくベジプロジェクト等の取組み** 国分寺市は農地面積が多い(東京都内 2 番目)という背景があり、観光振興を目的に地方創生交付金を使って推進しているプロジェクトである。飲食店約 100 店舗参加、国分寺の野菜の魅力をＰＲ。ラストワンマイルの流通システムの構築。また、市民農業大学(援農ボランティアの養成)及び援農ボランティア事業(市民農業大学の卒業生が農家で活躍)を活用した取組み。 **□港区赤坂・東京農村** 1-3 階が都内の野菜を使用した料理を提供。コンセプトに賛同した飲食店が入居。 4-5 階がスタートアップ企業向けのシェアオフィスやシェアキッチン。東京農サロンの開催など（農家とベンチャーの出会い・情報集積の場・事業スタートのきっかけと人材が揃う場）。 **□都市農業の持続可能な農業への脅威** コロナに起因する燃料価格高騰、急速なＩＣＴ化（ＺＯＯＭ会議、手帳の生産履歴からシステム化）、ウクライナ危機による肥料価格の高騰(昨年比 60%増も)、高齢化による物流等の問題、異常気象に対応した栽培方法等。 **□都市農業のこれから、農林水産省策定『みどりの食料システム戦略』への取組み** ・化学農薬削減のためのＩＰＭ（総合的病害虫管理）の取り組み ・消費者との都市農家の相互理解の促進 ・施設栽培でのヒートポンプの導入(化石燃料燃焼型から省エネ型へ転換) ・有機農業への理解と技術の取入れ ・バイオスティミュラントの活用		
意見交換の概要	地域通貨『ぶんじ』の取組みの具体例について、国分寺市はカフェ文化があり、カフェ利用者から普及。飲食店・援農ボランティア・事業者の間で品物と交換できる。		
記録者のひとこと	生産目的の農地が都心部にある日本は世界的に珍しく、その特異性を都市計画に活かすべきである。≪都市懇サロン運営部会　委員　記録者氏名　高橋 晴也　記入≫		